

タイトル「リニア亡国論」(全 207 ページ)

発行所：株式会社ビジネス社

2018年10月1日 第1刷発行



著者：船瀬俊介

第1章 乗るほど、ガンのリスクは数十倍! — 強烈電磁波でガン激増、降りても続く発ガン性

第2章 誰も乗らない。空気を運ぶだけ — 発ガン恐怖に、お手盛り見積りのバカらしさ

第3章 爆発する建築費が、国家を爆破する — “やつら”の狙いは、日本経済の破壊だ!

第4章 甘い汁に、たかれ、貪れ、吸いつくせ — 9兆円犯罪、リニア談合やり放題

第5章 電力は新幹線の40倍! さあ、原発だ — ウラの狙いは原発建設、こっちでもポロ儲け

第6章 9割トンネル、南アルプス大破壊 — 沢は涸れ、観光資源は壊滅する

第7章 運転士がいない! 無人の超暴走スリル! — 未知の技術だ、クエンチ大事故を覚悟せよ

第8章 昔、満州。今、リニア — 進め1億、火の玉だ! — 「のぞみ」も時速500Km可能だ

第9章 こんなに「安い」「安全」!“エアロトレイン” — 時速500km、建設費は新幹線並み、電力は3分の1

内容は、リニアがもたらす電磁波の健康影響（発がん）に対する懸念と、リニアがもたらす時間短縮の便益に対する疑問、トンネル部分での避難経路の不備を紹介。具体的には、運転士がいない無人運転、超電導リニアにクエンチ事故のリスク、乗り換え時間を含めた実移動時間を新幹線比較。

久しぶりに訪れた、区境を超えた図書館の鉄道関係の書棚で目に留まり読んだ本です。読後の感想。新幹線が開通することによって在来線が第3セクターになってきたように、リニア新幹線が開通することにより、東海道新幹線の「のぞみ」が廃止され、「ひかり」と「こだま」になり、名古屋までの移動にはリニア新幹線を利用せざるを得ないように誘導されてしまうのではないかと？ リニアが真に安全な乗り物として登場して欲しいという願いです。